

第5次朝霞市総合計画に係る市民懇談会

「分野別市民懇談会その2」開催！



第5次朝霞市総合計画の策定にあたり、市民の方の声を広く計画に反映していくため、市政の分野ごとに意見を伺う「分野別市民懇談会」を、平成26年7月25日（土）から8月9日（土）にかけて開催しました。

平成26年1月の開催に続き2回目となる今回は、全5回で計67人の方に参加いただき、全727件の市政に関するご質問やご要望等をいただきました。

◆分野別市民懇談会とは？

市政についてより深い情報交換や意見交換を市と市民の方とが行えるよう、市政を5つの分野に分けて実施した懇談会です。

市民の方が、それぞれ興味のあるテーマに分かれワークショップを実施し、各テーマに対する様々な意見をいただきました。

※ 掲載している意見等は、原則として当日記された原文のまま転記しております。

	テーマ	開催日時	参加者数
第1回 総務部会	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害は必ず起こる！ これからの行財政改革をどうするか 今後の公共施設のあり方を考える 	7月5日（土） 午前10時～	14人
第2回 教育部会	『朝霞の教育』～学校教育と生涯学習～ <ul style="list-style-type: none"> こんな学校にしたい 学校とこんな地域参画をしたい 生涯を通じて、こんな学びをしたい こんな施設で学びたい 	7月12日（土） 午前10時～	10人
第3回 健康福祉部会	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援・青少年育成 高齢者支援 社会保障 障害者支援 健康づくり 	7月13日（日） 午前10時～	15人
第4回 市民環境部会	<ul style="list-style-type: none"> 生活環境 産業振興 ごみ処理 交流・コミュニティ 	7月26日（土） 午前10時～	13人
第5回 都市建設部会	『これからのまちづくりを考えよう』 <ul style="list-style-type: none"> まちの10年の変化を振り返る 将来のまちづくりを考える 私が今からできるまちづくり 	8月9日（土） 午前10時～	15人

1. 総務部会

◆市民の方からの主な意見

(1) 自然災害は必ず起こる！

今回（平成 26 年 6 月 25 日）の水害
・市内各地の想定災害のシミュレーション（液状化等）が欲しい
・今回の水害の防災広報がなかった
・大雨情報、警報（地区ごと）
・下水対策、水無川地形、溜まる所の対策

自助
・地震時は考えるが過ぎてしまうと忘れてしまう
・緊急時の連絡方法（携帯不通時）
・各家庭での災害避難シミュレーション
・自助の食糧の定期的販売

共助
・地区毎に防災無線で情報を流すようにしてほしい
・町内会にいる高齢者の避難名簿
・高齢者の一人住まいでの共助が大切
・超高齢の人、どこの人をどこの人が見守るのか
・自治会・町内会に加入していない人との共助
・民生委員に共助の要になって欲しい
・公助を待つ間の自助・共助の構図を考えておくことが大切！！
・災害の際の自助、共助の体制作りを町会が音頭を取って動き出したらどうか
・町内会のワクを外して地域の共助

公助
・防災無線のフリーダイヤルを周知させる
・避難計画の見直し（避難が困難な人がいる）
・食料の備蓄、非常食の購入
・避難場所、退避場所の違い
・避難経路確認
・避難場所が被災した場合の対応
・お年寄りが遠くまで避難できるのか
・避難する場所をわかりやすく
・災害対策用名簿が必要、仮名も可とする
・市民も自分の避難場所位は認識したい（すべし）



◆資料

- ・埼玉県では、東日本大震災を踏まえ首都直下地震に備えた新たな地震被害調査を進め、その結果を、平成 25 年 11 月に発表
- ・首都直下地震に係る最新の科学的知見や、過去の被害地震を踏まえ、5つの地震を想定
- ・1 時間降水量 50mm 以上、80mm 以上の年間観測回数は、統計期間 1976～2013 年で増加傾向が明瞭に現れている

埼玉県地震被害想定調査に基づく想定地震

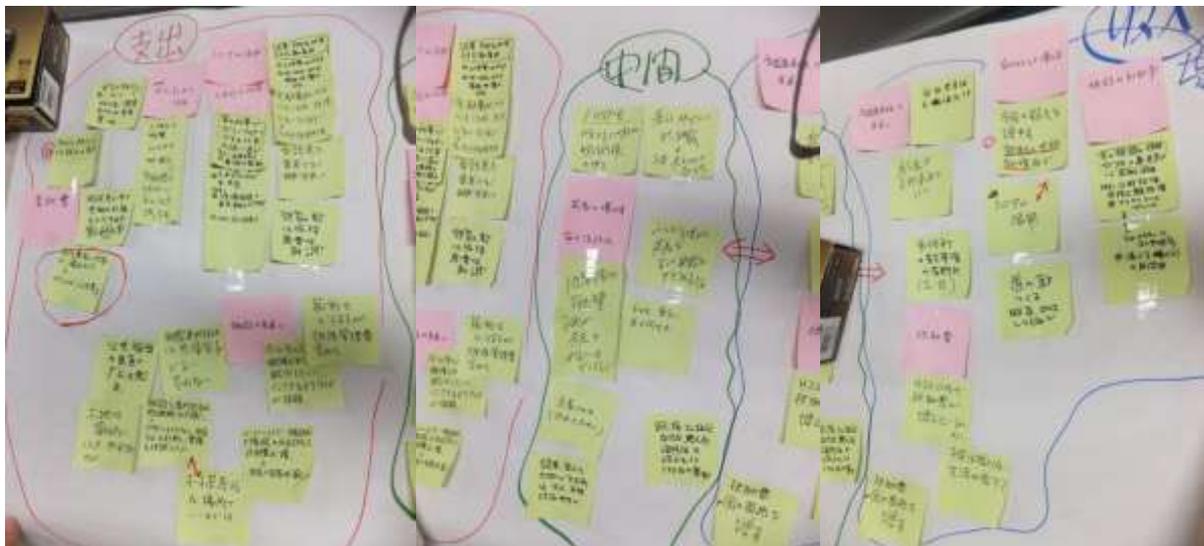
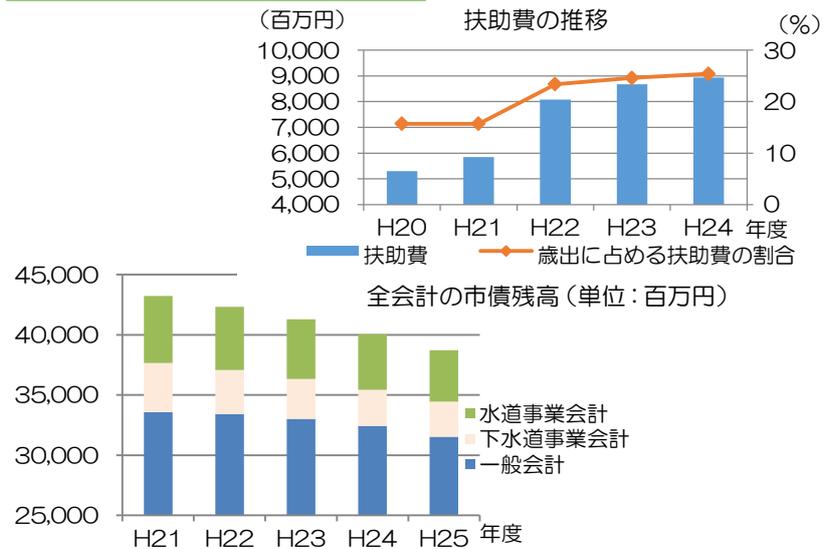
名	称	地震の 想定規模	朝霞市の予 測最大震度	備 考
海溝型地震	東京湾北部地震	M7.3	6 強	今後30年以内に南関東地域でM7級の地震が発生する確率：70%
	茨城県南部地震	M7.3	5 強	
活断層型地震	元禄型関東地震	M8.2	5 強	今後30年以内の地震発生確率：ほぼ 0%
	関東平野北西縁断層帯地震	M8.1	6 弱	今後30年以内の地震発生確率：0.008%以下
	立川断層帯地震	M7.4	6 弱	今後30年以内の地震発生確率：2%以下

(2) これからの行財政改革をどうするか

支出
・人件費の減少対策 シニアの活用
・市民参加を増やして市の仕事を減らす（ボランティアでできる仕事の洗い直し）
・半ボランティアでやっても、教育管理は市職員へ
・議員の数は維持、歳費は削減
・市職員がやるべき事は、外注しないで欲しい
・財政苦しい中で共助の仕組みをどうするか
・委託費等の内容が適正か？→例えば人件費等
・朝霞基地跡地は無償貸与でよい買わない
・土地は買わない リース無料寄付など
・施設を集約化すると周辺地域は不便になるので、大型のものでなく空家などを利用し、管理を地域の人に任せてはどうか
・H21～22で、税収の大幅減と反比例して扶助費が増え、市民の生活が厳しくなった

中間
・暮らし続けたいまち→子供・若者が多いまち
・定着させる（流出を防ぐ）
・弱者、若人を大切にする町は大人や子どもも住みやすい
・増えた子供や若者をずっと朝霞に留めるには
・子ども、青年に目を向ける
・既存の組合、自治会、老人会、消防団の活性化

収入 増やす
・高齢者に負担求めている
・市役所の駐車場の有料化（土・日）
・扶助費 国の負担を増す
・市民の収入を増やす 就職の世話 訓練など ⇔シニアの活用
・道の駅をつくる 販直、加工、レストラン
・市の施設の使用状況の見直し



◆資料

- ・平成20年のリーマンショック以後、市税収入額が大きく下落しており、平成24年度は平成20年度より7億5千万円以上の収入減で、財政状況の悪化の大きな要因に
- ・生活保護受給者や保育需要の増加に伴い、今後も扶助費は増加していく予想
- ・第四小学校、第五小学校改築事業などの大型事業が終了し、ごみ処理施設建設事業や宮戸市民センター建設事業などの大型事業の償還が終了したため、市債残高は毎年減少傾向
- ・税収が落ち込む中であっても市民サービスの水準を低下させないよう、財政調整基金を活用することで財政運営を行ってきたこともあり、現在は、基金の残高が減少傾向
- ・安定した財政運営を行うためには、ある程度の残高は確保しておくことが必要

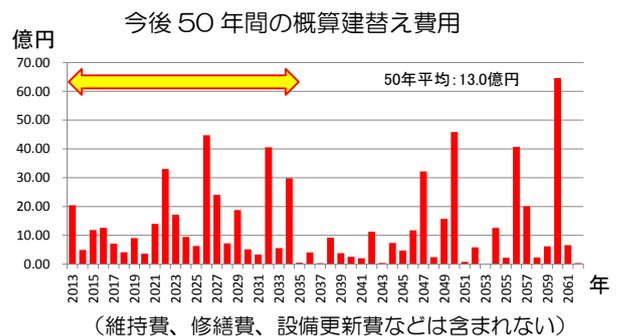
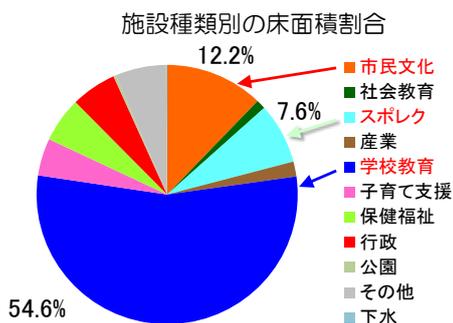
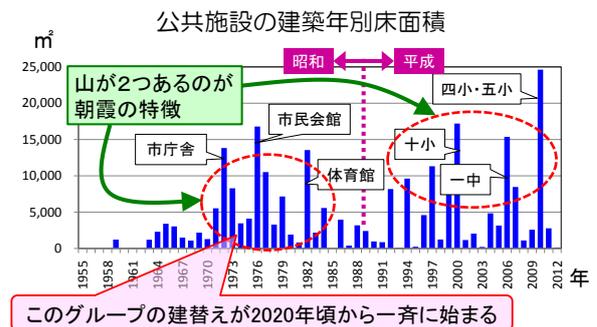
(3) 今後の公共施設のあり方を考える

改修（用途変更）	維持管理	新設
<ul style="list-style-type: none"> 湯〜ぐうじょうの今後（老人ホームか保育施設に） 空建物の民間の利用、（部屋）一時利用 市有地の空きを民間に貸して有効活用する 延命化（今あるものの有効活用） 災害時の空施設の利用検討 維持経費を明らかにすべき 市の施設の優先順位をつける 	<ul style="list-style-type: none"> 産文センターは予約が取りづらい 長寿化に民間の技術・ノウハウ活用を 市庁舎の建替えは他の建物に分散させる 老朽化施設の現状確認 公共施設は強くないと駄目（災害時拠点となる） 避難所として活用できるようにしていく 学校を利用して（土・日）集会施設にする 耐震を考えるなら学校を建て替える計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> 使用中止にならないような施設管理をすべき 老人ホームや保育施設が欲しい（不足している） 精神障害の方のグループホームを作る 民間運営する施設 土地は市が提供 新しく箱物をつくるときの市民からの要望 集会施設が不足している（土日祝日） 施設維持 管理 建替え お金がかかる 複合施設を作る



◆資料

- 本市の公共施設の総延べ床面積は、約 25 万㎡で、昭和 40～50 年代と平成に多く建設されている
- 昭和 40～50 年代に建設された施設が、数年後に一斉に建替えの時期を迎える
- 床面積の割合でみると、本市の公共施設のうち学校施設が約 55%を占めている
- 今後 50 年間の概算建替え費用は 1 年あたり約 13 億円で、今後 20 年間では 1 年あたり約 15 億円となる



2. 教育部会

◆市民の方からの主なご意見

(1) 学校教育（こんな学校にしたい／学校とこんな地域参画をしたい）

地域と学校 <ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校 学校を地域活動生涯学習の拠点に 生涯学習と学校応援が結びつけば良いのでは！ 地域活動への指導者の参画 世間体を越えた触れ合い 	学校 <ul style="list-style-type: none"> 生きる力の養成 学力向上（落ちこぼれを無くす、授業の工夫、地域からの支援 「塾」に頼っていないか 先生方にもいろいろな経験（体験）が必要 先生のやる気、余裕が大切 専任の副担任を全クラスに付ける 先生が楽しくないと子どもも楽しくない 職員会議などで先生同士の交流を図る 自然と触れ合う学習教育 	先生とPTA <ul style="list-style-type: none"> 知識の伝達でなく、知識と知恵の教育 イジメ問題は、いつ、どこにでもあることを認識、隠さないこと 教師が忙し過ぎないか 先生にノイローゼが多い（ストレス、コミュニケーション能力不足） 子どもも親も忙し過ぎ 先生の当り外れがないこと 先生が教えることが楽しいと思うことが大切
教育委員会 <ul style="list-style-type: none"> 教育委員会と現場のコミュニケーション充実を 教育委員会は市民と協力 教育委員会への市民参加 先生の評価見直し 30人学級の実現 指導要領などに縛られ過ぎているので、改善を 6・3・3制は問題かも（一貫性にする事で余裕ができる） 	学校に頼りすぎないか <ul style="list-style-type: none"> 指導者の選定枠の拡大 部活指導は地域のクラブの専門家に 学校と社会教育の区分け必要 家庭、地域の役割分担 地域の学校支援 学校応援団の活用が出来るのか 部活に指導者を導入できないか（紹介制度創立を） 	学校に頼りすぎないか（続） <ul style="list-style-type: none"> 指導者のコミュニケーション能力の向上 様々な体験をさせるなど、遊びを重視 子どもだけでなく親にも、社会教育の場を考える 教師のレベルアップ（グローバル社会） 目と目を合わせて会話しましょう（親・先生・子ども） 障害者と一緒の学習



◆資料

- 市内小中学生の学力は、県平均を上回っている
- 市では全小中学校に学校図書館サポートスタッフを配置し、各学校では読み聞かせや読書週間の設定などを行っているが、小中学校とも1日に読書を「全くしない・ほとんどしない」の割合が県に比べ高い
- 将来の夢や目標について、小学校では約70%の児童が、「夢や希望を持っている」と答えたが、中学校では約50%と低迷しており、将来の生き方について、目的意識を持ちながら主体的に生きる力を高めていくことが課題

(2) 生涯学習（生涯を通じて、こんな学びをしたい／こんな施設で学びたい）

公共施設のあり方	生涯学習の人材	生涯学習のしくみ・生涯学習のつくり方
<ul style="list-style-type: none"> • 空き家や空きフロアを公共施設とすべき • 空き店舗を使用してコミュニティの場を • 公民館がバリアフリーになっていない、高齢者に優しい創りにしてほしい • 博物館の催しに興味があるが、足が不便なので市のバスの本数を増やしてほしい • 公共施設と美術館機能があるとよい • 定年退職後、国民年金加入時に地域生涯教育を周知する • 会場を集中管理、有効に使う方法 • 健康づくりに公民館を利用できるようにしてほしい • 高齢者利用が増えるので、杖や階段等施設の工夫をして欲しい • 施設の点で、トイレ（特に女子の）内の下げ金具（バック類も）を下に付け直してほしい • 各施設の申し込みを1ヶ所でわかるように工夫してほしい • 図書館に喫茶室を設けてもらいたい • 学習する場の用意 • これからの施設は汎用性を求めるべきである • 公民館に自由に座れる椅子を増やしてほしい • 図書館で食事をするスペースがあり助かる、他施設でもお願いしたい • どの公民館にも行き易くするためにバスを増発してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> • かつてパートナーシップカレッジで学んだ • パートナーシップカレッジの再開 • パートナーシップカレッジ、退職した人を先生にしてキャリアを生かす：朝霞の宝 • リタイアした人が、地に足をつけて活動できる工夫を（組織的に集めるシステム、仕組み等） • 人材バンクをもっと周知すべきである • 自分の体験を話せる人を発掘し、登録してもらい、先生をやってもらう • 学習計画の市民を入れた立案 • 公民館は利用者の興味のあるテーマをもっと掘り起こして講座を計画 • 公民館に特色を持たせる（もっと利用しやすくなる） • 公民館ごとの催物で特徴を出すことは不可能か • 若い人が集まりやすい公民館 • 学習テーマごとに公民館のメイン講座を実施し継続する • 市民企画講座とおとどけ講座を一緒にして事業を考えたらどうか • 図書館を地域デビューの場にすべきである • 平和教育は、地域の歴史を知る朝霞の人の声で、学校で語ってほしい • プレーパークを生涯教育から位置づける • 職員の専門性を重視してほしい • 学ぶことは友達ができてつながっていくこと • NPO との協働はしくみを考えるともっと拡がるのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> • 学習テーマを公募し講座を作って参加を募る • 中小企業の地域の生涯教育への参画 • 「人」を生涯教育の場に組み入れる • 同じような講座が多いので、各公民館で話し合って計画してほしい • ボランティア養成講座を開催しても残る人が少ないので工夫を • プラネタリウムを平日も利用したい • 若者向けの生涯事業プラン • 博物館を市民のために活用すること • 学習の企画は多いが市民のネットワーク、知人の繋がりが欲しい • 地域に密着した公民館事業を考える必要がある • つなげるための行政との関係 • 子どもと年寄りとの交わる場を • 文化課があってもいい • 市民だけでなく大学と連携してレベルアップをめざしてほしい
要望疑問		◆資料 <ul style="list-style-type: none"> • 生涯学習を充実するために、市には情報提供や相談機能の充実が特に求められている（市民意識調査） • 多様な市民ニーズを捉えた適切な学習支援や、学習成果を地域へ還元し、地域における学びの循環を図ること、生涯学習活動を指導・先導する新たな人材の発掘や養成などが課題



3. 健康福祉部会

◆市民の方からの主なご意見

(1) 子育て支援・青少年育成

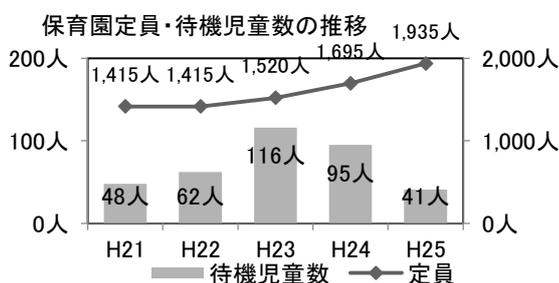
ボランティア分担
<ul style="list-style-type: none"> 資格のある退職者を微少ボランティアとして採用 地域ボランティアによるクラブ組織 高齢者がボランティアとして遊びに参加する 子ども支援＝高齢者の生きがい、生涯学習 世代間交流の場づくりを積極的に コーディネーターの育成

緑の中で外遊び
<ul style="list-style-type: none"> 朝霞の森を遊びの場に（自然あそび、昔あそび） 骨が折れても心が折れない場所づくり 自然体験できる自由保育の実施 森の幼稚園を朝霞の森を使用して開催する

その他
<ul style="list-style-type: none"> （現状認識）国の予算の比 欧州 福祉・教育・医療 2 : インフラ・軍事 1 日本 福祉・教育・医療 1 : インフラ・軍事 2 少子高齢化は本当か（北欧、仏は出生率 2.0 以上）

◆資料

- 待機児童数は平成 23 年から平成 25 年にかけて減少
- 地域の子育て支援について様々な取組を行っているが、子育て家庭の形態はさまざま、今後は民間の活力の活用も含め、サービスの充実が必要
- 保育サービスの充実は、増え続ける需要に答えられておらず、財政的な負担も増え続けているのが現状



子育てネットワーク
<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援のネットワークづくり 親たちのネットワークづくりができる場を作る おやじの会、グランパの会（父親、祖父母を巻き込む）

ソフト面の改善 （長く安心して働ける）
<ul style="list-style-type: none"> 保育士、指導員などの研修を充実させる 保育園、学童保育などの雇用を安定し、待遇を改善し、働きがいを持って長く働いてもらう 支援者養成講座 イジメをなくす（隠さず、表に出して対策を）

居場所 学校以外
<ul style="list-style-type: none"> 中学・高校生が学校以外で活動できる遊び場、スポーツ、演奏等の居場所をつくる 中高生の希望：スケボー、キャンプの実現

青少年
<ul style="list-style-type: none"> 中高生が学校でやる気を出すため、先生の縛りをとくようなシステム 地域のスポーツクラブを活用し、先生の部活の負担を減らす

学校支援
<ul style="list-style-type: none"> 学力向上支援に高齢者の力を 夏休みの中高生の学習の場

制度 仕組み
<ul style="list-style-type: none"> プレーパークのプレーリーダーに（人件費）予算をつけてほしい 子育て支援枠だと思う 楽しく行政に意見が届く方法を考える 井戸端会議の重要性 子育てに関する予算は優先し、市直営または直営に準ずる 広報にあそび場（プレーパーク）カレンダーが欲しい 児童館、子育て支援センターの情報を広報に載せて周知して欲しい 子育て世代は大切な納税者で購買意欲も大きい 入学前の転出を防ぎたい 子どもと言っても年代の幅が広いのできめ細かい対応が必要



(2) 高齢者支援・健康づくり

高齢者支援

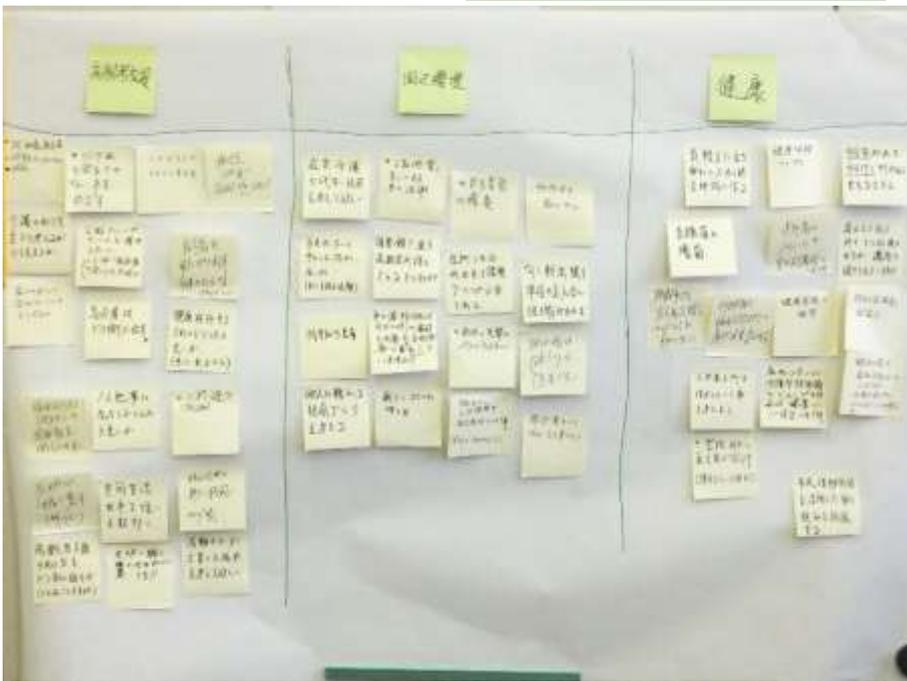
- ・認知症高齢者に対するマンツーマン対応
- ・孤独死を発生させない市をめざす
- ・相談しやすい福祉の窓口に！
- ・福祉部門（行政）の雰囲気明るくせよ
- ・高齢者を引っ張り出す魅力的なプログラム
- ・老幼と一緒に暮らす街づくり
- ・共同生活できる住まいを数多く
- ・町内会に新しい機能が必要
- ・活動のリーダーを育てる施策を考えて欲しい
- ・施設の人材確保

周辺環境

- ・在宅介護のしやすい政策を考えて欲しい
- ・公有地貸し出しによる民の活用
- ・民生委員の増員
- ・町内会の役割を見直すこと
- ・向三軒両隣単位の支え合い組織があれば
- ・市民センターにサロンを作れないか
- ・市民センター、公民館等で高齢者向けの行事を
- ・図書館で過ごす高齢者が増えていく、どうするか
- ・近所付き合いが出来る環境づくりが必要である
- ・他人に頼れる社会づくりを考える
- ・高齢者という呼び方を変えよう

健康

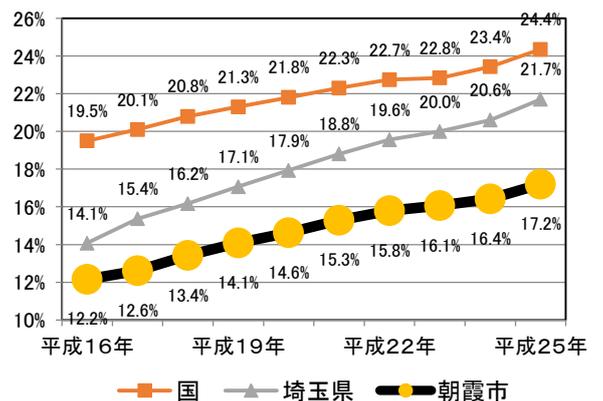
- ・気軽に立ち寄れるたまり場を地域に作る
- ・健康体操を続けてほしい
- ・「今日用事がある」「今日は行く所がある」という生き方をする
- ・退職者のノウハウを生かす講座の開設
- ・支援員の増員
- ・行政側、福祉部門の専門性を高めよ
- ・認知症検査を格安で
- ・認知症は病気であるということを広め、治療で進行をおくることが出来る
- ・人が集まる所を活かしていく事を考えよう
- ・各センターに介護予防体操のグループを作れば健康づくりに役立つのではないかと
- ・市民活動団体を活用した取組を推進する



◆資料

- ・高齢化は、今後 10 年間は緩やかに、その後は急速に進むと見込まれ、今後 10 年間は本格的な高齢社会に向けた基盤整備に取り組む時期
- ・認知症の方が増える中、早期診断・早期支援や、認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けるために、地域の理解を深める取組が必要
- ・高齢者のこれまでの経験を生かし、『地域の担い手』となていただくような取組が必要
- ・健康について、公共施設の分煙などは進んでいるが、20 代女性の朝食の欠食や、運動習慣のある人の割合などは悪化傾向
- ・H26 年度から第 2 次「あさか健康プラン 21」を開始し、「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」を目標に健康づくりを推進する。

高齢化率の推移



(3) 障害者支援・社会保障

社会保障

- 無年金対策は生活保護対策でもある
- 非正規の労働者の無年金対策が必要である
- 社会福祉と行政が本庁と祝崎の社会福祉協議会と分かれて不便

子どもの（学習）支援

- 生活保護世帯の大学進学への援助が必要
- 障害者・生活保護受給者の子どもたちへの学習支援と居場所づくりを

配布資料の説明を

- 統計資料には、社会保障の朝霞市負担が明確になっていない
- 身体障害者手帳の説明で、県集計では減少しているが、実質的には増えているとのこと
その部分はどこに？

将来像

- 「私が“私らしく”暮らし続け“られ”るまち 朝霞」に
- 障害があっても年をとっても“私らしく”くらするまちに！
- 10年後には貧困の連鎖を断ち切る
- 社会保障は最後のセーフティネットであり、10年後も維持発展すべき

障害者と一緒に暮らす

- 障害者がより気軽に社会参加できるように
- 精神障害者も含め、差別をなくすことを目標に

障害者の就労

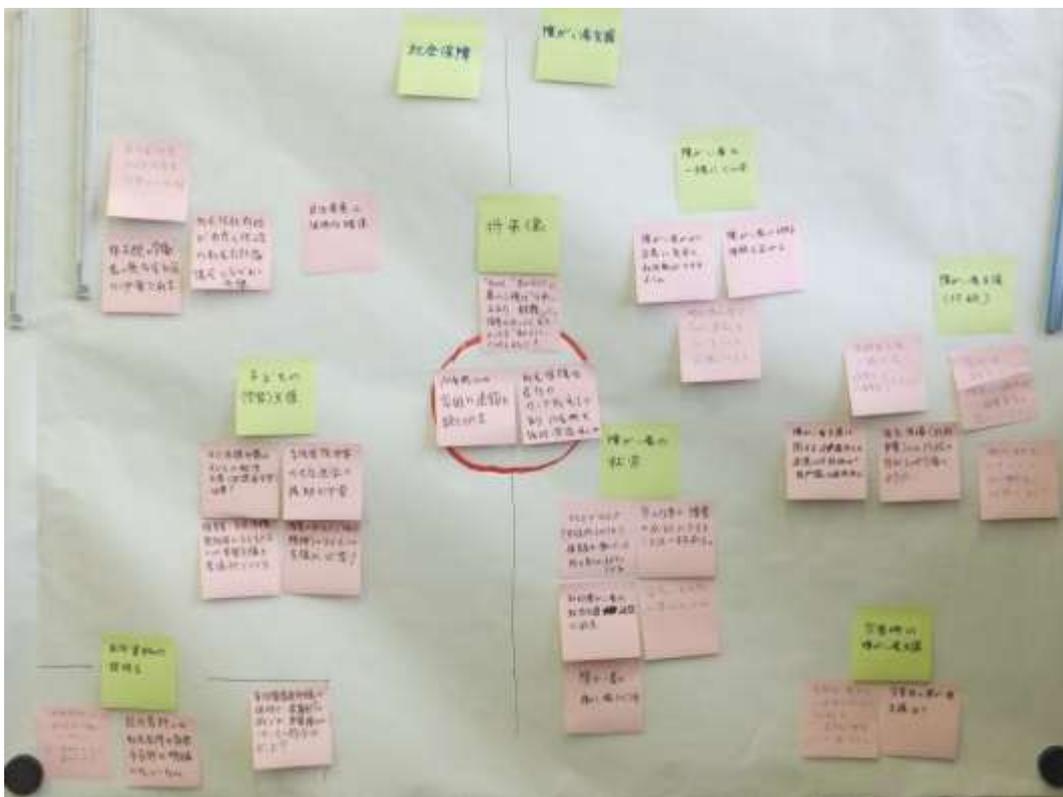
- 市の仕事で障害のある人にできることは一杯ある
- 知的障害者の就労支援施設の拡充
- 安易に民間企業に委託をしないほしい

障害者支援（行政）

- 高齢者支援へ偏っているので、子育て、障害者へもっと力を入れてほしい
- 福祉はまちおこしであるという視点で積極的に税金を投入してほしい
- 障害支援に関する近隣市との連携の可能性はないか（専門家の雇用など）
- 福祉現場への行政の目がしっかり届くように
- 精神障害者へのサービスが他の障害者と比較して少ないのではないかと

災害時の障害者支援

- 災害時、緊急時に連絡できるような携帯電話を高齢者、障害者へ渡してほしい



4. 市民環境部会

◆主な市民の方からのご意見

テーマ①生活環境 ②ごみ処理

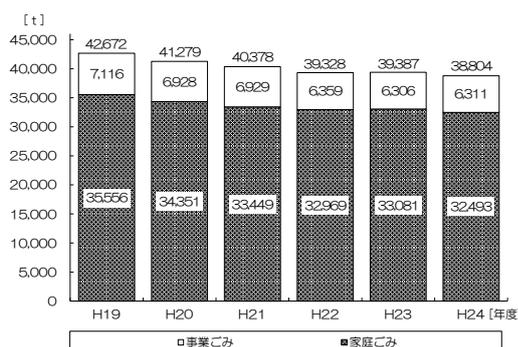
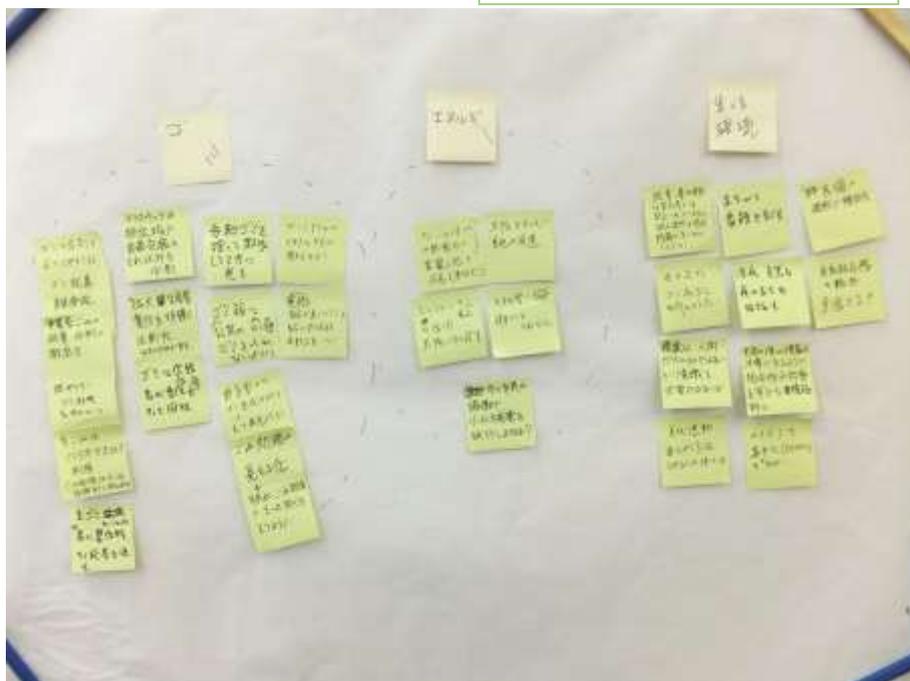
ごみ
・ごみ収集細分化
・ごみ処理の見える化（市民がごみ排出にもっと関心をもつように）
・事業系ごみの減量・分別の徹底を
・燃やさないごみ処理を考えていく
・自分で出したごみは自分で処理できたら良い
・拡大生産者責任を明確に法制化（市も行動）
・ごみは供給・生産者が責任をもって回収
・毎朝ごみを拾って散歩している方に光を
・公共のごみ箱に家庭ごみを入れないように
・彩夏祭でのごみ意識は上がっているので、もっと推進してはどうか
・生ごみ堆肥化した者に農作物引換券を渡す
・プラスチックは排出時に容器包装とそれ以外を分別
・ペットボトルのリサイクルをもっと進めては

エネルギー
・クリーンセンターの熱電力の蓄電池の設置
・マンションの屋上の活用（太陽パネル設置）
・太陽エネルギー基地の設置
・市と市民の協働で小水力発電を試行

生活環境
・除草剤の使用は官公庁では禁止されているが、個人使用の場合問題がないのか
・カラスのごみあらしを何とかしたい
・環境は人間だけのものではないという意識も必要
・美化運動、皆でやる方法（やる人が減っている）
・まちから看板をなくす
・深夜、真黒な夜のまちを目指す
・大雨の後の消毒が不要になるように総合治水対策を市でも積極的に
・ムクドリ集中化（北朝霞）の被害
・野良猫の避妊に補助を
・自動販売機の撤去（多過ぎる）

◆資料

- ・市の人口が増加する中、ごみ排出量は H19～H24 年にかけて約 9% 減少
- ・市ではごみの有料化をしていないが、市民の努力と市の取り組みによるごみの減少を期待している
- ・ごみ焼却処理施設は、現在実施している延命化対策工事で H33 年度まで稼働可能だが、将来のあり方として和光市とのごみ処理広域化も検討



ごみ排出量の推移

テーマ③ 産業振興

商業の活発化	観光	工業
<ul style="list-style-type: none"> • ステキな景観を作る • 人を呼べるブランドがある。店にきてもらい他の店も含めてにぎわいをつくる • 楽しさ、来たくなる商店街。休み場所も必要 • 買い物が他市に流れるので、朝霞に人を呼ぶ大きな店を • 駅前商店街の電線地中化、一方通行化（人優先） • 商店街誘導の駐車場を作る。基地跡地利用 • 商店街の活性化＝交通体系見直し • ゆるキャラの利用で経済効果 	<ul style="list-style-type: none"> • 観光課を作る • ボランティアガイドの養成 • 夏の彩夏祭、春の黒目川、秋の朝霞の森 • 市、全体が同じ方向で動く必要あり • 城山公園の利用 • 朝霞のアピールポイントを明確にする • 市外に朝霞の魅力を発信する • 4市の観光資源を共有化する 	<ul style="list-style-type: none"> • 朝霞の手こぎ三輪車 • 地元企業を応援 • made in ASAKA を創業する • フruitを使ってイベントなどを企画する • 企業誘致。税軽減等の財政的対策（研究機関） • 企業と市民との Win・Win の関係を
農業	新しい産業を起す	サービス
<ul style="list-style-type: none"> • シャッター店の野菜プラント化 • 農地法の改定を上申する • 耕作放棄地の積極的利用 • 体験農業。他から人を呼ぶ • お茶飲み場を作る 	<ul style="list-style-type: none"> • 地産地消を目標に地元エネルギー • 水車を利用、小水力発電を • シティ・セールスを活発に行う • カラス、たぬきなどの対策産業を起す • 新朝霞ブランドの発掘 • 歴史、自然などをブランド化 • 黒目川など河川資源を生かす 	<ul style="list-style-type: none"> • 朝霞を目的に下車、途中下車させるにはどうしたらよいか • レストラン、カフェなど、地産地消 • 基地跡地の活用（コンサートなどのイベント） • 昼飲みできる場所 • 木陰ベンチ（緑陰の読書）
	雇用	
	<ul style="list-style-type: none"> • 障害のある人、若い人が安心して働ける場作り • 高齢者を生かす仕事（ボランティア）の受け皿を 	

◆資料

- 市では産業振興を目的に H18 年に朝霞ブランドを創設し、H22 年度までに 18 品目が認定
- シティ・セールスの一環として「シティ・セールス朝霞ブランド検討委員会」を立ち上げ、彩夏祭、黒目川、本田美奈子・モニュメントなどを選定
- 市内では地元で買い物をする市民が減少し、後継者不足や空き店舗が目立つため、朝霞 TMO 構想に基づき、朝霞駅前広場を活用したイベントの開催など、駅前から市内全域に賑わいが波及するよう努めている
- 市内の農地は減少傾向だが、消費者が近くにいる利点を生かし、市では直売や農業体験、市民農園等の事業を実施
- 彩夏祭が昨年 30 回目を迎え、近年では最多の人出となる約 68 万人もの来場者があった



テーマ④ 交流・コミュニティ

地域	コミュニティ	広報
<ul style="list-style-type: none"> ・地域のコミュニティは町内会・自治会のみか 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝霞の森に遊びに来る子が多勢いるのでお祭りを 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものいない家庭のつながり情報
<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の活性化→一部の人の集まりになっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の神社のお祭りをもっと大事に 	<ul style="list-style-type: none"> ・国民保険加入時に市の活動をPR
<ul style="list-style-type: none"> ・町内会のメリットがないから、入らない 	<ul style="list-style-type: none"> ・祭りを通してつながりを（お年寄りも参加できる） 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報源に公民館の活用、チラシ
<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の見直し（エリアの見直し） 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内のコミュニティ活動の広報をもっと活発に 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報の利用→集まり、グループの連絡
<ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとの特長のある集い、まつり、イベントの必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ・車に乗ってデイケアでなく、歩いて行ける場でお茶のみしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の取り方がわからない
<ul style="list-style-type: none"> ・イベントになると長老の主張が強い 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前通りをコミュニティ街に 	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきネットワークに参加するにはどうしたらよいか情報を知りたい
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動の発表の場があるのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・長く住んでいる人と新しく入った人との交流の場がほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・野球場へ高校野球を見に行けるようもっと宣伝を
<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動への参画方法がわからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・家にこもっている障害者や主婦がふらりと行けるたまり場を 	<ul style="list-style-type: none"> ・困りごとがあったら来て下さいではなく、家に向向いて話しに来てほしい
<ul style="list-style-type: none"> ・地域のリーダーが変わらない（変われない？） 	<ul style="list-style-type: none"> ・家にこもっているお年寄りが参加しやすいプログラムを 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちを知る機会や仕組みの不足・必要性
<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動が個々の活動で横のつながりがない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホッと茶屋のような気軽に集える場を各地域にほしい 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会活動を積極的に後押しする 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・リタイアした人の受け皿の組織と仕組み 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・シャッター通りを若い人の起業の場にし、にぎわいのある街に 	
	<p>地域の活性化が重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーマンの養成（企業OBの活用） 	



◆資料

- ・自治会・町内会の加入率が低下しており、市では転入時に加入促進のリーフレットを配布する、開発行為の申請段階から周辺町内会への加入や個別での自治会結成を呼び掛ける等の取組を実施
- ・自治会・町内会の果たす役割が重要となる中、役員の高齢化や担い手不足などが問題
- ・集合住宅では隣接町内会との関係が希薄となる傾向があり、隣接する町内会と集合住宅との連携促進などを視野にいれていくことが必要
- ・今後は、イベントや講座に参加した方が市民活動に参加しやすい仕組みづくりが必要

5. 都市建設部会

◆主な市民の方からのご意見

自然、農地、緑・川・土・水

まちの魅力	まちの課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ケヤキやいちょうの並木、緑のトンネルがよい ・朝志ヶ丘緑地、ジェネシティの道路、公園通り ・個人宅の奥さんたちが落葉はきをしている ・斜面林がきれいな里山になった ・朝霞の森ができ子どもたちの声でにぎわっている ・広場と基地跡地の緑が大きな魅力 ・ボール広場（周りの道路が整備され住宅もきれいになった、広場ができ店も立ち退かなかった） ・青葉台は運動や水場がありいつもにぎわっている ・農家が多いので樹木が豊か、季節の花も楽しめる ・黒目川に魚や鳥が住んでいる、川遊びも可能に ・黒目川の土手が走りやすく歩きやすくなった ・越戸川がきれいになった ・朝霞水門、川と緑 	<ul style="list-style-type: none"> ・広沢の池、自然が失われた ・溝沼、三中の西はコンテナや自動車を置くところになり、緑が周囲を囲ってなく、品が無い ・東弁財3丁目、住宅街一部、品があるのに3~4Fのアパート・マンションが出来、緑が全く無い ・斜面林の減少、宅地化されている（宮戸） ・黒竹が有名であったが、今はほとんど見られない ・市民農園等が少なくなり、老人の楽しみが減った ・田が激減し資材置場が増え、雰囲気が悪くなった ・畑が耕作されなくなりマンションになっている ・産業廃棄物の施設（産廃業者が集まり危険） ・公園に子や人が集まらない。南割公園のように木々や子の遊べる楽しいものがほしい ・射撃場の発砲音が聞こえる（朝6時から）
「暮らし続けたいまち」となるために	自分自身が今からできること
<ul style="list-style-type: none"> ・街路樹の樹形を美しく、種類も多くなる ・敷地の道ぞいに樹を植えて頂き環境をよくする ・土場を残す（農業農地の保全） ・農地・林地を水源と位置づけて保全の対策を ・生物多様性に配慮 ・斜面林の宅地化を止め、緑を残す ・歴史の町であることを整備する ・朝霞の森が人の寄りどころになるように周知する ・老人にやさしい公園（木陰、トイレ、休み場等） ・基地跡地の複合施設化 ・基地跡地を緑のシンボル、市民のいこいの場に 	<ul style="list-style-type: none"> ・農家を応援、体験農園などを主催（市と共催）する ・あさかひろば。将来の基地跡地、自然公園整備等のボランティア ・基地跡地で市民が憩えるように市民参加で努力する

開発・暮らし・生活・街並み

まちの魅力	まちの課題
<ul style="list-style-type: none"> ・駅前電線地中化できた 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝霞駅南口は全体的にバランス悪く、気品のあるまちになってない ・朝霞駅東口、区画整理がよくない。駅前にボタン指示のできる地区 ・北朝霞駅はマンション、広告、商店のセンスがなく、道が狭い ・ビル・マンションの高さ規制、無秩序な開発 ・コンクリート採取業者（音、景観悪い）
「暮らし続けたいまち」となるために	自分自身が今からできること
<ul style="list-style-type: none"> ・商店のある所を人々が散歩して歩ける取組をする ・マンションへの規制を「水と緑～」の目標に出来るだけ沿わせる ・10階以上の建物を建てたり一企業が多くのマンションを建てたりした場合の学童、保育所の提供等 ・友達がいっぱいいるまち、コミュニケーション ・無秩序な開発の規制、高層ビルの高さ制限 ・＜総合計画＞の理念だけでない実現！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝霞の森に特に協力する

道路・交通

まちの魅力	まちの課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ケヤキ通りが整備された ・とても使いやすい道路になっている ・栄町、旧国道 254 号の歩道が良くなって嬉しい ・インフラの向上（下水道） 	<ul style="list-style-type: none"> ・根岸台周辺、迷子になる ・歩道の街路樹が少なく、夏は特に暑い ・東公民館への道がとだえていて困った ・歩道がなくて危険を感じる（駅前通り） ・バス通りが歩きにくい、商店が閉まっている
「暮らし続けたいまち」となるために	自分自身が今からできること
<ul style="list-style-type: none"> ・脇道・側道等チップ化、コンクリートをやめる ・道路にお金をかけない。規制で安全を確保する ・メイン通りの電線地中化 ・公道と私道の管理を明文化すること ・駅前商店街の一方通行化 ・駅前通りは、一通でなく、人が優先で車も遠慮しながら入れるように ・朝志ヶ丘交差点で事故が多い、スクランブル交差点にできないか ・歩道の幅を広くしていくこと ・ゾーニングの街路計画の策定 ・自転車道の整備 ・高齢者が安心できるまちづくり、道路の整備 ・コミュニティバス、集合タクシーの利用 ・バス停をコミュニケーションの場に。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バスのルート作りに市民の意見を。 ・自転車のルール順守

買物／安全・安心なまち／地域活動・地域づくり

まちの魅力	まちの課題
<ul style="list-style-type: none"> ・向こう三軒両隣が成立している ・彩夏祭、市民交流居場所づくり ・彩夏祭は赤ちゃんからお年寄りまで参加できてよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・三原地区（公共施設がない、商店がつぶれ、たまり場がない） ・田島地区（自動車がないと買い物できない） ・大型チェーン店乱立（駅前がきたない） ・朝霞銀座通りの商店街衰退 ・高齢者が増え、災害時の避難が不安 ・防災の拠点の減少 ・地域活動の空地がない
「暮らし続けたいまち」となるために	自分自身が今からできること
<ul style="list-style-type: none"> ・買い物難民のために地域にコンビニを一軒 ・商店街にたまり場、シニアの室内体操（健康）場など、まず人を集める（商店と住民の会を作る） ・商店街分布の見直し ・いろいろな専門店がそろっているまち ・市行政職員非正規の方を正規化（特に子ども、人に関する仕事） ・地域住民とのつながり ・地域の人々が気軽に集まる場を増やす ・彩夏祭に次ぐイベントを！ ・黒目川の川祭、朝霞の森秋祭り 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に声をかけ、顔のわかるふれあいをする ・町内会の活性化 ・役割分担で助け合いの仕組づくり ・地域の高齢者との結び付きを深める ・川まつり、町内会まつり等への企画参加 ・環境パトロールで啓発 ・各公民館、文化活動を市全体の行事化、たまり場づくり

公共施設

まちの魅力

- ・図書館はゆったり読書ができ、食事ができるのうれしい
- ・保育園、公立が増えた
- ・わくわくどーむの老若男女楽しむ場所
- ・地域センターができて、便利になった

まちの課題

- ・旧第4小学校跡地、交通の便が良く広いスペースがあるがうまく活用されていない
- ・図書館の職員が以前より少なくなった

「暮らし続けたいまち」となるために

- ・保育園の派遣職員を少なくする
- ・公的保育園の増⇒将来シルバーの施設へ
- ・シルバーグループホーム、シルバースポーツエリアの拡大
- ・図書館の拡張、喫茶店打合せコーナー
- ・若い人が集まる拠点を作り、しゃべり場とする
- ・障害者の作業所、グループホーム
- ・児童館が多くなったので合同で集まる機会を作る
- ・旧4小跡地に古民家（膝折村田屋）を移築し文化拠点として活用

自分自身が今からできること

- ・図書館視覚室の活用。映画、講演、芝居、寄席等の企画・実行
- ・あさか歴史散歩の説明員
- ・児童館で異世代交流、昔あそび、よみきかせ

市民参加・市政

「暮らし続けたいまち」となるために

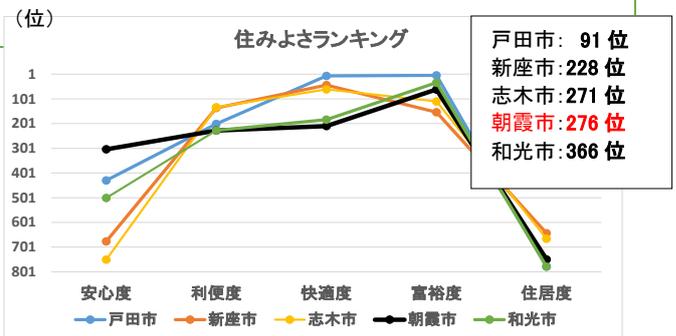
- ・市民が中心のまちづくり
- ・市民参加の一層の推進協働作業を進める
- ・オープンガーデン庭の展示開放（年に〇回）
- ・青少年が「朝霞が好き」と思える施策を考える
- ・市議員が市内で介護、福祉、教育で活躍している組織グループに積極的にかけられる時間の余裕
- ・市議員の担当をすぐにかえないで、目標のある程度達成するまで人を育てていく
- ・市全体のコンセプトを明確にする事
- ・古家を平地にするための税の統一化、家を残さず撤去すること
- ・箱物は極力作らない
- ・田や畑が減少せず、市街化調整地区業者の乱開発を許さない。豊かな緑のゾーン化
- ・歴史散歩のコース作り（パンフも）。市民が身近な歴史に学べる工夫を。
- ・おもてなしの街づくり。楽しく行ってみたい街
- ・シャッター通りを若い人の起業で盛り上げる

自分自身が今からできること

- ・赤ちゃんのいる人、老人のおしゃべりの場の提供
- ・各種計画に市民が参画
- ・交通ルールの徹底（時には参加する）
- ・都市コミュニケーションのデザインをする
- ・分科会を組織、徹底したコミュニケーションをすすめる（参加する）
- ・地域スポーツ、文化、芸術、クラブ（小中学生）をつくり、そのコーチ・アシスト
- ・再生エネルギーづくりの“市民会議（仮称）”（行政・市民・専門家）をつくり、具体化、促進
- ・独居老人への訪問、話し相手
- ・市でも空き家利用の支援を考えて欲しい
- ・旧4小跡地を、煙が出せる陶芸の里として文化拠点にする
- ・景観に配慮した街づくりの合意、形成

◆資料

- ・本市の住みよさのランキングは、H15～25年の間で大きく上昇し、H25年は812市区中276位（但し近隣の戸田市、新座市、志木市を下回る）
- ・市内の分譲マンションは206棟（H22年）で10年間で約14%増加、このうち駅から半径500m以内は全体の約2割
- ・市内の緑被率はH10～20年間で約1.3%減少したが、公園面積はH16～26年間で約23%増加
- ・交通事故発生件数は、H15～25年間で3割以上減少し、県内全市平均と比べても4割程少ない
- ・H25年度の市民意識調査によれば、「ずっと住み続けたい」が平成16年から約14ポイント増加の41.5%に増加
- ・市民意識調査では、公共交通機関の利便性の評価が高い一方、歩道がない（狭い）ことへの不満が増加傾向



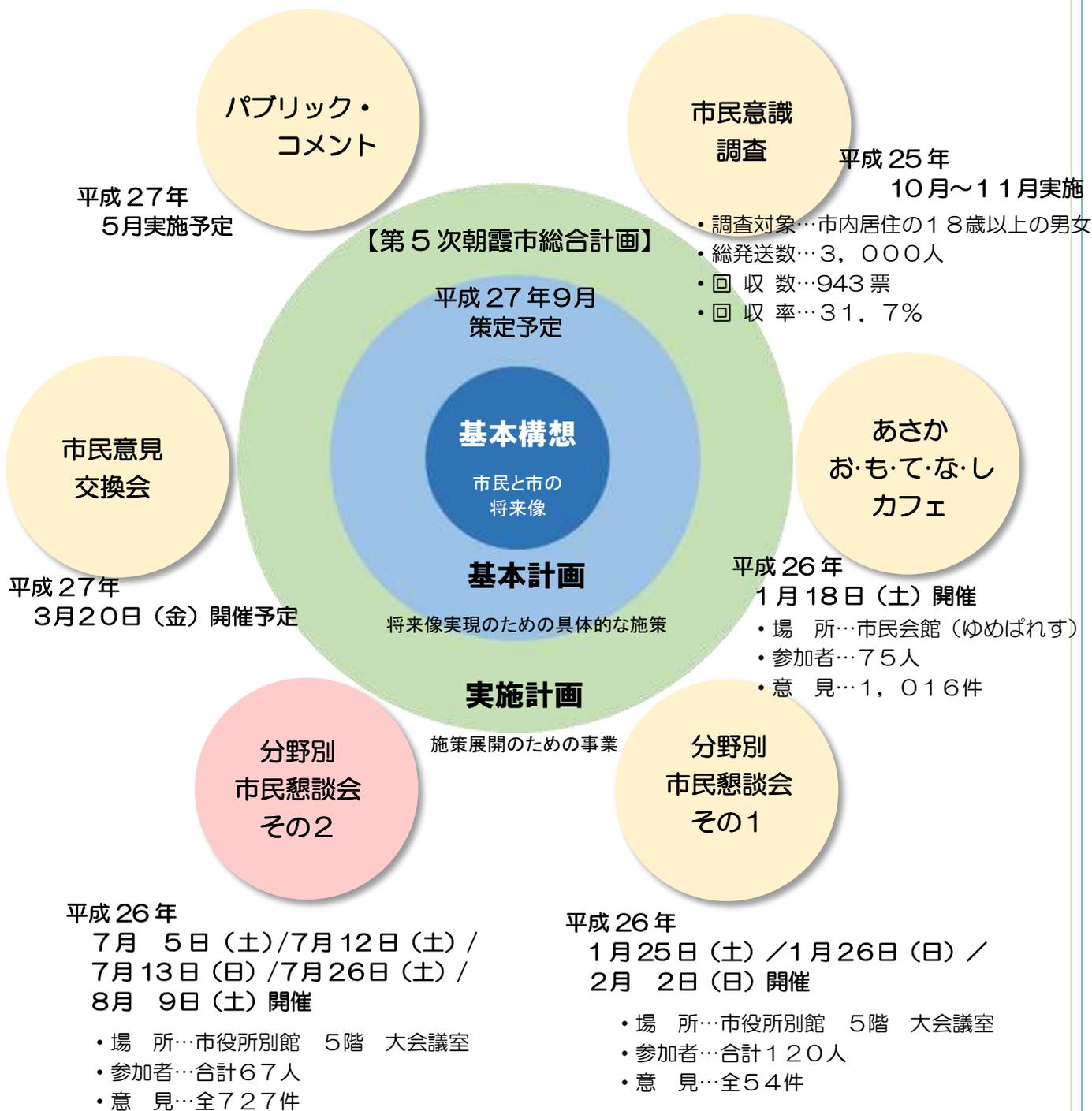
交通事故発生件数（件）

自治体名	交通事故発生件数(件)
志木市	240
和光市	406
朝霞市	499
新座市	575
戸田市	806
県内全市平均	868

出典：埼玉県警察本部交通企画課（平成24年）

◆当日の意見はどのように計画に生かされるの？

当日頂いた意見は、総合振興計画審議会へ報告するなど、総合振興計画審議会での基本構想の検討や、庁内策定部会で前期基本計画を検討する際の資料とするほか、日ごろの市の取組等に活かしていきます。



【問い合わせ】

朝霞市 市長公室 政策企画課 政策企画係
電 話 048-463-3089(直通)